

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成29年3月17日
調査研究事項	学習指導に関すること 学校・学級経営に関すること
調査研究のねらい	<p>これまでも入学するまでの状況の違いによって、生徒間の学力差は非常に大きかったが、近年日本語会話が十分でない外国籍生徒が増えている現状がある。このことから、個々の生徒の状況に応じた学習指導のあり方が課題となっている。多国籍の生徒が混在して学校生活を送っており、その中で公立高等学校等への進学を希望する生徒も増えている。それに対応した進路指導も向上させる必要がある。そこで、以下の2点について研究し、今後の学校運営に生かす。</p> <p>① 国語（日本語）の能力を向上させる教材、指導法を探る。 昨年度よりアラビア語圏の生徒の入学に伴い、その生徒への日本語指導の充実を図る。また外国籍生徒への進路指導の充実を目指す。</p> <p>② 異文化理解、多文化共生を推進する学校行事を行う。</p>
調査研究の成果	<p>1) 今年度も生徒は多国籍化し（10カ国）若年層と高齢層と更に渡日してから日数の浅い英語圏ではない生徒の入学で個人個人に応じた指導の必要性が非常に高まった。それに対応するために以下のことを実践した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の基礎となる日本語の習熟度に応じて、3コースを5分割にするなどきめ細やかな指導を行った。できるだけ出身国などがまとまるようにコース編成し、出来るだけ複数の教師を配置するなどの工夫を行った。また個に応じた教材を準備するなど丁寧な指導を行った。 ・小学校・中学校の国語の学習指導要領を基本としながら、日常に関連づけた日本語や生活ですぐに役立つことを目指した教材を利用するなど工夫した。 ・定期的に研究委員会を開き、コース間で系統的な国語指導を行うように努めた。 <p>このような取り組みを行った結果、4月当初よりも漢字の読み</p>

書きができるようになった生徒が増えた。ただ英語圏からではない新入生は今後も丁寧かつ継続的かつ基礎的な日本語指導が必要である。

全ての生徒が1年間の学習の総まとめとして、自分の考えを作文にまとめ、その集大成として作文集『希望』を発行することができた。さらに、これを使って各コースの授業において一年間の学習を振り返り、次年度へ向けて課題を確認し、目標設定を行った。

また、本年度も昨年度と同様に外国人に日本語指導を行うNPO法人から講師を招き、新渡日の若年層の進路指導について研修を行った。公立高校の帰国子女枠や中国等帰国生枠などを積極的に利用していくことで進路が開けていくことを研修した。また日本語の必要性の度合いに応じて「直接教授法」などを研修して、授業に活かすようにした。これは、英語圏・漢字圏・アラビア語圏などに応じて活かすことができる方法であり、今後もこの研修は深めていく必要があると考えられる。

2) 人権全体学習を『障がい理解』をテーマにNPO団体を招いて行った。講演や車いす体験を行った。

また、在日外国人問題（主に在日韓国朝鮮人問題）をテーマに人権全体学習を行った。その後自分の名前のルーツを発表し合う学習会を設定して、この学習のまとめとした。

3) 異文化理解、多文化共生を推進する学校行事については、全体学習にて異文化理解、多文化共生を学ぶ映像を利用し日本語・英語の2つのコースを分けてより伝えることを意図して学習を行った。また、事前指導では日本語・中国語・英語・タガログ語・アラビア語を使ったプリントを作成しより細かく指導できた。